

cafe talk_07

07号の制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。
平成生まれの2人のコラボレーションは、1ヶ月前の出会いから始まりました。

ゲスト 中崎航さん デザイナー
ミヤザキさん 画家



中崎航
1989年徳島県生まれ。デザイナー。大阪を拠点にグラフィックデザインと企画制作をしています。
<http://watarunakazaki.com>

ミヤザキ
1992年島根県生まれ。画家。大阪総合デザイン専門学校卒業後、制作と展示を中心に活動。要素をそぎ落とした、シンプルかつ独特な「線」の表現を追求している。今後はアート作品制作と平行してイラストレーションにも積極的に挑戦し、活動の幅を広げていく意気込みである。
<https://www.facebook.com/miho.miyazaki.581>

—— 中崎さんには、特集で取り上げた[study?]関連のデザインを過去3回、すべて担当していただいています。

中崎 毎回アーティストのキャラクターや作風が違うので、すごく刺激になります。#3も期待しています。

—— お2人が一緒にお仕事されるのは初めてだと伺いましたが？

ミヤザキ この夏enocoで開催された「夜マルシェ」で初めてお会いして、ポートフォリオを見ていただいたのがきっかけです。

中崎 面白い絵を描く方だなと思っていて、この機会にさっそくお願いをしました。

—— ご縁ですね！enocoのイベントからそういった動きが生まれるというのは、私たちにとってもすごく嬉しいことです。

ミヤザキ 普段の作家活動とは違ったイラストレーションの仕事ということで、すごく貴重な体験でした。

中崎 予想外の絵が出てきて、僕も楽しくデザインさせていただきました。どんな職業でも皆さんそうだと思うのですが、仕事って本当に人と人とのつながりで成り立っているなと日々感じますね。

ninOval cafe

enoco地下1階 営業時間：11:00～18:30（月曜日定休）

秋の新作「抹茶チョコレートのパンケーキ 自家製グラノーラがけ」登場！
大阪池田の三丘園の本格抹茶の苦味とホワイトチョコレートのほのかな甘みがアクセント。たっぷりのホイップクリームと香ばしい自家製グラノーラと一緒に楽しみください。少し肌寒くなってきましたね。ホットドリンクとふわふわのパンケーキでほっこりしてください。お待ちしております！



enokojima creates osaka
enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
Enokojima Art, Culture and Creative Center,
Osaka Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

開館時間：10:00～21:00（ただし展示室は11:00～19:00・日曜日は11:00～16:00）

月曜・年末年始休館

電話 06-6441-8050 | FAX: 06-6441-8151

メール art@enokojima-art.jp

www.enokojima-art.jp

enocoニュースレター 07

2015年10月発行

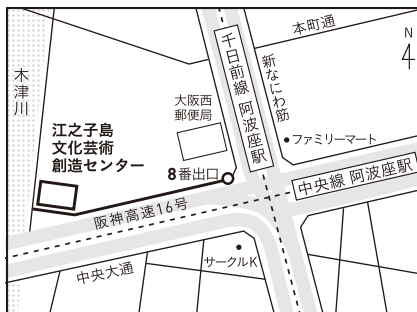
「enocoニュースレター」は、enocoが年4回発行する情報誌。enocoで起きていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。

| 発行 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター | 編集 | 峯恵子 (enoco 企画部門)

| 表紙・特集ページデザイン | 中崎航 | 表紙・特集ページイラスト | ミヤザキ (表紙)

| アートディレクション | 後藤哲也 (OOO Projects) | デザイン | 小池一馬 (OOO Projects)

| イラスト (エノケン、似顔絵) | タダユキヒロ



[アクセス]
大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、
8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。

enoco

07



特集：study???

2013年度にスタートした、若手アーティストのためのサポートプログラム enoco[study?]

“study”という言葉には、「勉強する」「研究する」「検討する」「観察する」「練習する」など、多くの意味がありますが、enoco[study?]においてアーティストに求められるのは、一人きりで完結してしまうのではなく、他者の存在を受け入れ、さまざまな考え方を吸収しながら“study”することです。アーティストはどのように社会と関わることができ、アートは社会の中でどのような力を持っているのか。enoco[study?]では、若手アーティストに制作と展覧会の機会を提供するとともに、社会におけるアートの可能性について考えます。

07号の特集では、2013年度、2014年度の参加アーティストの活動について振り返りながら、このたび3回目を迎えるenoco[study?]についてご紹介します。

enoco[study?]とは

「社会や他者との関わりを通してアートの可能性を拓くこと」をテーマに、若手アーティストを公募し、外部審査員とenocoスタッフによる審査を行います。入選者1名(1組)に対しては、アトリエや制作費の一部提供、ワークショップやリサーチのコーディネートという形で作品制作をサポート。約3ヶ月間の制作期間ののち、enocoとの共同企画で館内のギャラリーにて展覧会を開催することが条件となっています。

www.enokojima-art.jp

enoco[study?]#1 友枝望の場合

プラン概要



テーマ: 借りて、飾る、インスタレーション

[study?]#1で友枝望が提案したのは、周辺地域の家庭などから土産物や民芸品などの「置物」を借りてきてインスタレーションを構築するというプロジェクトでした。3ヶ月かけて様々な置物を113点借り、それらのルーツなどをリサーチした上で、サイズ/種類/関係性などで分類して配置し一覽できる空間をつくりました。置物にまつわる貸し主の思い出話と客観的データを資料としてあわせて展示することで、日用品としての「置物」やそれを飾るという行為にひそむ生活の豊かさや創造性を提示する取り組みとなりました。

制作の流れ

2013年	7月	enoco館内にスタジオを構える 此花区梅香に滞在場所を借りる enoco周辺地域の住民交流会等に参加
	8月	置物募集の呼びかけを継続 置物引き取り
	9月	オープンスタジオ(9/4～15) ワークショップ&レクチャー(9/7) 中間発表会(9/7) 置物データシート作成
	10月	展覧会開催(10/5～19)



(左)7月上旬:町内会等にて置物募集の呼びかけ

町内の住民交流会や地域の掲示板で置物募集チラシを配布。定期的に交流会に参加し、個別に説明をしながら置物を貸してくださる方を探した。

(右)9月以降:アーカイブ作業

借りてきた置物の写真を撮影し、スケッチと解説文を加え、博物館での資料作成を彷彿とさせるデータシートの作成作業をくり返した。



友枝さんに聞く、振り返りと今後の活動

——study? に応募された動機を教えてください。

友枝:2013年春までドイツにいたのですが、帰国してFacebookで募集を見かけ、関西で発表しことがないので応募しました。また、応募したプランはアーティスト個人では実現が難しい面もあり、公の施設と組むといいのではと思ったからです。

——3ヶ月という制作期間でしたが、借りてきた置物を1点ずつ撮影し、スケッチや調査をしていたので、最後はずっとスタジオと滞在先で黙々と作業をされていましたね。やはり短かったですか。

友枝:人から物を借りるというコミュニケーションが軸になるプランだったので、やはり3ヶ月という期間では厳しかったです。個々の置物のことをもっと調査したかったし、もっと多様な置物を集めたかったですね。

——study?は「他者や社会に対してひらいていくこと」がテーマですが、友枝さんの作品は他者から置物を借りて来ないと作品が成立しないという他者の介入ありきのものでした。貸してくださる方を探すことの大変さもありましたが、そもそも作品に他者の存在や視点が入ることについてはどう思われますか。

友枝:自分とは異なる考えを持つ他者の介入を面白く感じます。お借りする際にうかがう置物にまつわる思い出話も様々で興味深く、置物自体も貸し主の方が自宅にある置物から何を貸し出すかご自身で決めていただいたので、その選ぶ視点も面白かったです。お店の場合、縁起物は借りられないこともありました。

——その後、千葉県市原市でも「CLUSTER」シリーズを発表されていますね。

友枝:大阪滞在中に再会した旧知のアーティストに誘われ、2014年春中房総国際芸術祭「いちばらアート×ミックス」という芸術祭で発表しま

した。この時は元小学校の空間で敷地内から廃品となった備品や文房具などを集め、吊って見せるインスタレーションをしました。2015年にも総合ディレクターの北川フラムさんから声をかけてもらい「アートいちばら2015」で展示を行いました。基本的にstudy?の時と同じく「集めて/アーカイブして/展示する」という流れで進めています。ボランティアの方と収集のためのフィールドワークをして彼らの視点も取り入れたりしました。——今後どんな作品をつくってみたいですか。

友枝:広島に住んでいるのですが、被爆70年ということを含め、激動する時代の中で様々な社会の課題に向き合うことを考えるようになりました。被爆や戦争そのものというよりは、それらに接続する些細なことや、広島や社会が抱えている課題を提示できるような作品の構想をぼんやりと持っています。



写真左:高坂玲子(enoco企画部門) 写真右:友枝望 2015.8.11 @enoco↔広島

友枝望(ともえだのぞみ)

1977年大阪生まれ、広島在住。広島市立大学大学院芸術学研究科(修士)修了後、ハンブルグ美術大学に在学、2013年までベルリンで活動。物事の「相対関係」を探るべく、ノーリングという整理手法や位相幾何学を参考にしながらインスタレーション作品を展開している。 www.nozomitomoeda.net

enoco[study?]#2 堀川すなおの場合

プラン概要



テーマ:目の前にある「もの」その本来の姿はなにか?

堀川すなおは、古くから多くの哲学者やアーティストが取り組み、また私たちが日常的に抱くシンプルな問いを[study?]#2のテーマとして掲げました。当初は他者の考えを聞いたりドローイングをしてもらいながら考察を深めることで、個人が持つイメージの差異をはかるというシンプルなプランを予定していましたが、リサーチやワークショップを繰り返すうちに制作方法が変化し、最終的にはコミュニケーションツールとしての「言葉」で記述されるイメージと実際に目で見える形の差異を繊細なドローイングを通して掘り下げるという実験的な試みとなりました。

堀川さんに聞く、振り返りと今後の活動

——study?への参加は、堀川さんにとってどんな経験となったんでしょうか?

堀川:それまではずっとアトリエの中で、基本的に自分一人でものを色んな角度から観察しながら絵画作品を制作をしていたんですが、study?で初めて自分以外の人と関わりながら作品をつくったんです。いろいろな人に話を聞いたり、ワークショップをしったりした経験が、作品をつくっていく上での大きな転機になりました。

——具体的にはどんなことですか?

堀川:制作の中盤以降まで、実は少し行き詰まっていたんです。ものの見え方について色々な人と議論してみたり、視覚以外(触覚など)を使ってもものの形について考えるということをしていましたが、それまでの自分の制作と比べてあまり進歩がないように思えてきていて…。でもある高校でのワークショップで、ものの形を他の人と説明しあい、言葉から想像する形をドローイングにしてみるということを初めて試してみて、そこから急にアイデアが展開していったという感じでした。

——「神が降りてきました!」と、事務所に駆け込んできた日がありましたよね!(笑)あの瞬間に立ち会えたのは、私たちにとってもすごく幸せなことでした。

堀川:言葉を介してもものの姿を他の人に伝えて、それをさらに形としてイメージしなおすという実験が、そのままenocoでの展示やその後の制作に繋がっています。

——2015年5月からはポーラ財団の在外研修員としてニューヨークに滞在中ですが、海外での生活はどんな感じですか?

堀川:ニューヨークという土地柄もあって、いろいろな人種やバックグラウンドの人と話す機会が増えて面白いです。紙に鉛筆で描くというスタ

制作の流れ

2014年	10月	enoco館内にアトリエを構える 此花区在住アーティストのアトリエ見学 「木津川アート」への出展時にリサーチ
	11月	大阪市内のギャラリーでWSをリサーチ enoco館内でドローイングWSを実施 学校でのドローイングWSを実施
	12月	ワークショップを続けながらの制作
2015年	1月	展覧会開催(1/6～24)



(左)11月29日:アトリエ公開と中間レビュー

公募時に審査を行った平田剛志氏、宮本典子氏をゲストに招き、さらに一般参加者を迎え、制作途中のアトリエの公開と意見交換を行った。

(右)12月上旬:大阪府立みどり清峰高校でのワークショップ

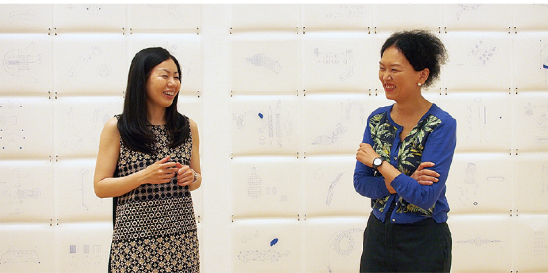
美術選択の2,3年生に向け、作品のコンセプトや制作方法、さらにどんな生活を送っているのかについてのレクチャーと、言葉とドローイングを介したワークショップを行った。



イルなので、カフェでも図書館でも制作ができるんですが、アメリカだと「何してるの?」みたいな感じで気軽にいろんな人が話しかけてくれたりして、日本とはだいぶ違うなと感じます。

——study?参加後から渡米までの間、関西圏以外でもさまざまなグループ展に参加したり、短い期間でかなり精力的に活動されている印象でしたが、これからはどんな展開を考えていますか?

堀川:とりあえずは、ニューヨークで公募に出したり展覧会を開くというよりも、地元の人と色々なことを話すと、制作のための種のようなものをたくさん作っておきたいです。展示方法や観察対象となるものについても、これまでの疑問に少し答えが出そうな気配がしているので、今ここでアーティストとしての基礎の部分を強くすることが今後の糧になるんじゃないかなと思っています。



写真左:堀川すなお 写真右:峯恵子(enoco企画部門) 2015.8.1 @Art Court Gallery

堀川すなお(ほりかわすなお)

1986年大阪生まれ。2008年のクーバーユニオン芸術大学への留学時から、国境を超えて‘もの’の持つ共通のイメージに興味を持ち制作を続けている。制作を通して、私たちはどのように理解し合っているのか?そして、今まで知っていると思っていたことは何か?という事を探ろうとしている。 <http://sunaohorikawa.com>

enoco[study?]#3 湯川洋康・中安恵一

入選アーティスト決定！

2015年9月上旬、第3回を迎えるenoco[study?]の審査会が行われました。

絵画、インスタレーション、映像、パフォーマンスなど、幅広い分野のアーティストからご応募を頂いた今回でしたが、「美術作品・プロジェクトとしてのオリジナリティがあるか」「社会や他者と関わることへの積極的な姿勢があるか」「プランの計画性・実現可能生は十分か」「enocoという場(施設)の特性を考慮した提案がされているか」「今後の創作活動につながる将来性・発展性があるか」という5つの選考基準のもと、2名の外部審査員とenocoスタッフによる厳正なる審査の結果、湯川洋康・中安恵一がenoco[study?]#3入選アーティストとして決定しました。

習慣・歴史・習俗をはじめとした過去から現在にわたる人間の営為とその痕跡と向き合い、そのメディウムやコンテクストを通じて多様な関係性を彫刻化する作品を制作。そして、彫刻化した作品を対象の“平衡”状態と見なし、その“平衡”を空間に配置する。鑑賞者が私たちの示す“平衡”と対峙するプロセスを通して現代社会に介入し、多様な次元を持つ関係性を構築する。

(作家ステイトメントより)

enoco[study?]初、ユニットが選出される結果となった今回。これから約3ヶ月の間、どのような「study」が行われるのか楽しみです。

プラン概要

テーマ：習慣、阻害、彫刻

そもそも、だいたいにおいて我々人間は習慣に対して無頓着で無自覚である。けれどもそれは、永く社会との関係性の中で続いてきた営為であり、あるいは社会を成立させている正体かもしれない。ごくごく注意すれば、私たちは、生活の中で、あるいは旅先で、あるいは歴史の中で、見慣れぬ習慣を持つ人や、彼らが残した物に容易に出会う。私たちは、社会とのやりとりを通して、そこに潜在しているものに触れることが、一つ制作の大きな動機になる。

身の回りの習慣を「習慣」として表面化するのは、習慣を阻害するものと対峙したときである。いつもの習慣が何らかの原因によって不自由となったときにこそ、その行為が自らのごくごく滑らかな身体的実践として浮彫になる。

私たちは、現在の習慣にほつれや違和感を生み出す一つの引き金として、また我々の習慣を振り返らざるを得ない状況を作るために、過去から現在にわたるメディウム・コンテクストの断片を拾い集めた彫刻を作る。彫刻化という作業を通して、その断片が交錯して成る“平衡”状態を提示する。私たちは、その彫刻を、関係性を張り巡らすパーツのように配置し、人間の営為、その過去 / 現在の編み込まれたほつれの空間として構築する。

制作にあたっては、大阪に暮らす人々との対話やインタビューなどによって、彼らの習慣とそれをめぐる潜在性について深くリサーチを行う。それによって浮かび上がった文脈や素材、物質などを、次は自らの手で収集し、時には置換をして、彫刻を構成するものにしていく。

(応募資料より抜粋)



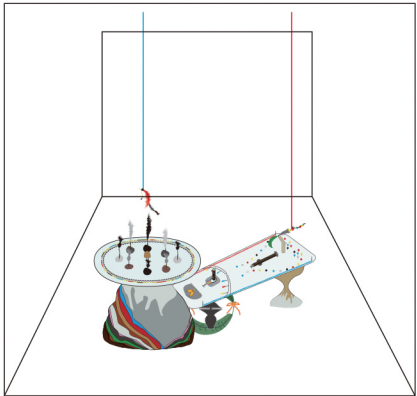
湯川洋康・中安恵一 (ゆかわひろやす・なかやすけいいち)
アーティスト。ともに1981年度兵庫生まれ、2012年結成。大阪を拠点に活動。

[主な展示]
2015「羽根を休めるハビトゥス」中之条ビエンナーレ2015,群馬
2015「漂い、刻まれ、漂う偶然」,Galeria大正蔵,淀江(鳥取藝術祭)
2015「豊饒史のための考察」第18回岡本太郎現代芸術賞展,岡本太郎美術館,川崎
2014「船は港に寄せられて港は船に選ばれる - 便りは届く -」,Kapo gallery,金沢
2014「縣神社美術館プロジェクト」,縣神社,宇治

[アーティスト・イン・レジデンス]
2014 CAAK & Kapo Creator in Residence 11,金沢

[出版]
2014 出版社「流通文社」設立
2014『理念学』、『依』第1号
2014『船は港に寄せられて 港は船に選ばれる 金沢』

[受賞歴]
2015 第18回 岡本太郎 現代芸術賞 入選



作品イメージのドローイング：
収集された習慣をめぐる文脈・素材・オブジェクトを支持体やメディウムとした彫刻



参考イメージ：「豊饒史のための考察」2015年 写真提供：川崎市岡本太郎美術館

審査員コメント

今回の応募プランには、他者とのコミュニケーションプロセスによる視覚化、作品化、地域や社会的な問題をテーマとするプランが多くありました。しかし、参加者頼みで「作品」が見えないプランが多いのも事実でした。

湯川洋康・中安恵一のプランは「習慣、阻害、彫刻」というテーマのもと、地域で習慣を阻害するものを調査、収集し、そのリサーチから得たものを彫刻化するというプロセスのオリジナリティ、社会や他者と関わる姿勢を評価しました。

近年の美術界では収集・アーカイブや民俗学的アプローチは新しいわけではありません。しかし、湯川・中安は手法や地域への介入、関係性に対して批判・反省点を自覚している点で異なりました。

アランは習慣とは「考えずに行動するすべ、しかも考えてやるよりもっとうまく行動するすべ」(『定義集』)だと書きましたが、無自覚な行為である「習慣」を考えるというこれ以上の「study」はないでしょう。地域の「習慣」を収集し、そこからどのような彫刻が生まれるのか。このプロセスにenocoや地域住民がどう関わるのか。作家の一方的な関係性ではなく、地域と平衡で豊饒な関係を構築するにはどうすればいいのか、それは湯川・中安だけでなく、今の美術界が抱えている課題のようにも思うのです。



平田剛志
(ひらたけし)

京都国立近代美術館研究補佐員、つくるビルアドバイザー
1979年東京生まれ。2004年多摩美術大学美術学部芸術学科卒業。2014年立命館大学大学院先端総合学術研究科修了。専門は近現代美術史、視覚文化論、吉田初三郎の鳥獣図。アートウェブマガジン「カロンズネット」の編集・ライターを経て2012年より現職。関西を拠点に、美術批評、キュレーションなど幅広く活動を行なっている。



宮本典子
(みやもと のりこ)

アートマネジメント・コンサルティング office N代表、ART OSAKA 事務局、capacious 事務局 担当
1980年茨城県生まれ。大阪の現代美術ギャラリーで6年間勤務した後、独立。現代美術の展覧会やイベントのコーディネートその他、企業と共に現代アートを活かしたCSRプログラムの開発、建築空間への現代アート作品のコーディネート業務を行う。

今後のスケジュール

これまで、金沢、鳥取、群馬など、各地で歴史学や民俗学の手法を取り入れながら民間信仰や伝承などについて丁寧なリサーチを行い、

そこから取り出した文脈、素材、意匠をもとに彫刻作品を制作してきた湯川洋康・中安恵一。

まずは「習慣」に目を向け、この10月よりリサーチを開始します。また大阪での展覧会開催は初めてとのこと。

enocoでの活動については、ウェブサイトやSNSなどで随時お知らせしていきます。今後の展開にどうぞ注目ください。

習慣についてのリサーチ	10月～随時	人それぞれの習慣についてのアンケート調査と有識者へのヒアリングを予定
ワークショップ	10月～11月	一般参加者を変え、「習慣の阻害」をモチーフにしたワークショップを実施
中間レビュー	11月中旬～下旬	リサーチの成果や制作の進捗、展覧会の構想について報告（一般公開）
展覧会	2016年1月9日～1月30日	3ヶ月にわたる活動の成果を展覧会として発表

※スケジュールは変更となる場合があります。詳細はウェブサイトにてご確認ください。



これからのイベント情報

次世代へつなぐ、学びと出会いの場 安威川フェスティバル



enocoプラットフォーム部門では、淀川水系安威川の茨木市北部に治水ダムとして建設予定の安威川ダムの周辺整備にあたり、さまざまな課題に対する解決策の検討や、その発展形としてのイベントなどを通して、多様なステークホルダーを巻き込んでの「ダムのファンづくり」に継続的に取り組んでいます。

安威川周辺の自然を守り、創造的な地域づくりを目指す人たちが出会う場となることを目指して開催される安威川フェスティバル。今年のテーマは「次世代へつなぐ、学びと出会いの場」。周辺の水辺で生息している水生生物についての展示や、ダム工事の廃材を活かしたワークショップ、さらに資料館見学やダム工事現場体験見学ツアーを通して、安威川ダムとその周辺について楽しみながら学ぶことができます。また、「踊ってつくろう！ ペットボトルピザ」、焼きいもやアマゴの塩焼きの提供など、地元の食材を使ったプログラムで「食欲の秋」を満喫することもできるはず。ぜひお出かけください。

—

開催日時：2015年10月31日(土) 10:00～15:00

※小雨実施(一部のプログラムを実施)、大雨中止

会場：大門寺北側 高台ゾーン

参加費：無料

主催：安威川ダムファンづくり会(茨木市観光協会、大阪府立江之子島文化芸術創造センター、大阪府、茨木市ほか)

えのこ de マルシェ 秋のアートブック古本市



2015年春から季節ごとに開催し好評をいただいているマルシェも、早いもので3回目となりました。

秋のマルシェは、enocoに入居しているアート・デザイン・サブカルチャーを取り扱う古本屋ON THE BOOKSとのコラボレーション企画で、テーマは「アートブック」です。

出店予定の店舗は、大阪でアート系の書籍・古本を扱うお店といえばココ、という店舗が勢ぞろいします。また、2013年3月に惜しまれつつも閉店された&'Sさん(現在はネットショップのみ)が1日限定で復活。こちらもお見逃しなく！

もちろんアートブックの他にも、建築・デザイン書や、店長達による特選本とアート雑貨、フードや珈琲のお店なども出店予定です。

秋のマルシェ日和に、古本を探しに遊びに来てください。店舗情報はHPにて随時公開予定です。

—

<出展予定店舗>

ON THE BOOKS(古本)、&'S(古本)、古本さくら屋(古本)、九龍堂(古本)ほか雑貨・飲食店なども多数出店予定。

日時：2015年11月21日(土) 11:00～17:00

会場：江之子島文化芸術創造センター[enoco]

参加費：無料

えのこのそうだん[eno so done!] 2015 公開フォーラム&ワークショップ



2014年度よりスタートした、「えのこのそうだん[eno so done!]」はアートやデザインを活用した地域活性化、各種事業の広報力アップや地域のブランディングなどに取り組む方々の悩みに応えるというプロジェクト。昨年度は各分野の最前線で活躍するアドバイザーがマンツーマンでじっくり相談にのるというスタイルでしたが、今年は昨年寄せられた相談の中から、特に共通して見られた課題(「シティプロモーション」「市民協働」など)を取り上げて、フォーラムなどを行う予定です。最初の第一歩はどのように踏み出せば良いか、抽象的な理念だけでなく、より現場に即した具体的な捉え方や方法を学んでいただきます。また同じ課題を持つ者どうし、横の連携と情報共有を図って頂く場を設けます。

詳細については、10月下旬にwebサイトにて発表を予定しています。

—

第1日：2015年12月上旬開催

テーマ：「シティプロモーション」

第2日：2015年12月上旬開催

テーマ：「市民協働」

参加対象：大阪府下の地方自治体職員

参加費：無料(要事前申込)

*2016年3月に3回目を別のテーマで開催予定です。

各イベントの詳細・申し込み方法はホームページをご覧ください。

enoco+KIITO フォーラム&ワークショップ(仮)



photo:Shunsuke Ito

同じ2012年にオープンしたenocoとデザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)。このたび初めてタッグを組み、協働プロジェクトを開催します。テーマは必ず「事業評価」。社会や地域の課題にアートやデザインを活用した手法でアプローチすることは、まだまだチャレンジ段階にあり、その事業の効果をどう分析し評価するかは、我々が抱える共通した課題です。そこで今回、文化事業の評価モデル開発の最前線であるイギリスから専門家を招き、フォーラムとワークショップを行います(共催：プリティッシュ・カウンスル)。現場で事業を担う方々に加え、行政機関等で政策立案や事業評価に取り組んでいる方にもご参加いただき、議論を通じてより理解を深めたいと考えています。詳細については12月頃Webサイトにて発表します。

—

[公開フォーラム@enoco]

2016年1月22日(金) 時間未定

定員：50名程度

参加費：無料

[ワークショップ@KIITO]

2016年1月23日(土)、24日(日) 時間未定

定員：30名程度

参加費：有料

エキシビジョンカレンダー 2015年10月 - 12月

月	会期	展覧会名	ルーム
10	6日(火) - 11日(日)	彫紙アート展	[ルーム1]
	6日(火) - 11日(日)	THE FINAL SHOT Yasuyuki Kitada 写真展	[ルーム3]
	6日(火) - 11日(日)	現代水彩画会小作品展	[ルーム4]
	13日(火) - 18日(日)	クスクス パッチワークキルト作品展	[ルーム1]
	13日(火) - 8日(日)	大阪府土曜会・趣味の作品展	[ルーム1,2,3]
	20日(火) - 25日(日)	新槐樹社 大阪支部絵画展	[ルーム1]
	20日(火) - 25日(日)	糸井洋一展 The concept "space"	[ルーム1,4]
	20日(火) - 25日(日)	ペントハウスの会展	[ルーム1]
	27日(火) - 11/1日(日)	チャーチル会大阪展	[ルーム1]
	27日(火) - 11/1日(日)	第3回 木版画&水彩画2人展	[ルーム4]
11	27日(火) - 11/1日(日)	好きなひとときを過ごす一人展	[ルーム1]
	3日(火) - 8日(日)	第14回 国画会大阪作家展	[ルーム1,2,3]
	10日(火) - 15日(日)	紀凜会 PARTⅧ展	[ルーム1,3]
	17日(火) - 22日(日)	日本水墨画大賞展2015	[ルーム1,2,3]
	24日(火) - 29日(日)	創友会展	[ルーム1]
12	24日(火) - 29日(日)	櫻井恵子 個展	[ルーム1,2,3]
	1日(火) - 6日(日)	第49回 政経文化画人展	[ルーム1]
	1日(火) - 6日(日)	新象関西展	[ルーム2,3]
	8日(火) - 13日(日)	芸術ran賞 8	[ルーム1,2,3]
	8日(火) - 13日(日)	白亜美術協会・京奈支部展	[ルーム4]
	15日(火) - 26日(土)	市民キュレーターによる大阪府20世紀美術コレクション展	[ルーム1]

くわしくはホームページをご覧ください <http://www.enokojima-art.jp/>

PICK UP



市民キュレーターによる 大阪府20世紀美術コレクション展(仮)

会期:2015年12月15日(火)~12月26日(土)
11:00~19:00(最終日は16:00まで)

※月曜休

会場 | 4Fルーム1

入場料 | 無料

主催 | 大阪新美術館建設準備室

共催 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター

助成 | 一般財団法人地域創造

今回で5回目となる、大阪府20世紀美術コレクションを活用した市民キュレーターによる展覧会。専門的知識や資格を持った学芸員ではなく、普段は展覧会の「受け手」である一般の人々がキュレーターとなり、学芸員のサポートを受けながら展覧会の「作り手」の仕事を体験する試みです。公募であつまった市民キュレーターが、およそ7800点におよぶ大阪府20世紀美術コレクションの中から作品を選び、展示方法や作品の配置を考え、実際に作品を展示し発表します。

会期中の12月23日(水・祝)には市民キュレーターによるギャラリートークを開催。参加無料、申し込み不要ですのでこの機会にぜひご参加ください。

展覧会 & イベントレビュー

アートでつなぐみんなの実験場

えのこじま仮設映画館

(2015年8月1日~8月30日)

空間設計:アトリエカフエ

企画協力・プログラムコーディネート:岩淵拓郎

日本の文化は「見立て」だ、と評したのは、たしか丸谷才一だった。対象を別のものに仮定し、自身の想像力を駆使しながらより高い芸術表現へと昇華する。歌舞伎や落語、枯山水、盆栽など、多くの日本文化はそうだった。その流れでいえば、今回のこの「えのこじま仮設映画館」は、つまりは「アートの施設を、映画館とする」という見立てからはじまった、ある意味とても日本らしいものだと言える。

なにしろ、ふだんはアートの場所として知られているenocoだが、映画とはあんまり関係がない。映画も芸術の一つとして成り立ったかもしれないが、すっかり大衆娯楽・大量消費製品になって芸術からは切り離されてしまったし、アートのと呼ばれる一部の小規模映画にしたら、アートとはまた違う文法で鑑賞されている。いわば、アートと映画は、いまでは違う畑になってしまったと言っていい。

だから、今回「一ヶ月間、enocoを仮設の映画館にする」と聞いたときは、おっかなびっくりしたものだが、同時にとてもワクワクしたものだ。「映画館の歴史が転換するかも」と期待したのだ。

映画館はいま二つの機能にざくりとわかたれてしまった。地域のコミュニティとしてのミニシアターや名画座と、機能美のみを追求したシネコンと。そしてシネコン側が隆盛で、コミュニティとしての機能はどんどん映画館から失われつつある。そんなとき、enocoが「スクリーンと映写機械と座席があれば、それでもう立派な映画館じゃないか」と見せつけたのはとても大きな意義があった。“コミュニティ”でも“至便性”でもない。映画館はもっと単純なものだ。と。それは「見立て」だからこそなした表現だ。映画館という存在を見立てて裸にすることで、「そうか、映画館って本来はこうだったんだ」と来場者に思い出させた。そこに、最小限の道具や手間で映画を作ったりそれについて話したりするプログラムが華を添える。「映画ってこんなにシンプルに、作られ、見せられ、消費されていく」ということをenocoは高らかに提示した。

アートの機能は、社会に対して大きなクエスションを掲げて「世界を変える」ことにその真髄があると思っている。その意味で「えのこじま仮設映画館」は立派なアートだった。ここから「全く新しい形の映画館」の姿が立ち上ってゆきそうな、そんな革命に近い出来事が、この夏の一ヶ月間静かに起こっていた。

森田和幸

もりた・かずゆき。「キネブレ」立ち上げ人。1981年、奈良県生まれ。広告代理店・新聞社勤務を経て、フリーの編集・ライターに。2012年5月に関西の映画・映像情報を発信するウェブマガジン「キネブレ」を立ち上げた。

<http://www.cinepre.biz/>



会場風景(仮設映画館シアター)
photo:Kiyoshi Nishioka



会場風景(仮設映画館映写室)
photo:Kiyoshi Nishioka



ワークショップ風景
(「映画館をつくらう-映画館制作部-」)



イベント風景
(「妄想映画祭の公開ミーティング」)



これまでのイベント

Osaka Creative Forum (2015年9月4日)

昨年に引き続き、今年も2夜連続で都市の公共空間を巡るトークイベントを開催しました。

1日目は大阪府とenocoの共催で、大阪市中央公会堂の集会室を会場に「新しいパブリックはいかに持続可能なものとなるのか」をテーマに開催。里山資本主義など様々なコンセプトを提唱して日本各地の地域振興問題に精通する藻谷浩介氏と、建築家でありながら不動産もカバーし、リノベーションによる地域活性化に成果をあげてきた馬場正尊氏の両名がゲスト。水都大阪をはじめとする大阪の事業を交えながら、まちが魅力的であり続けるためのプラットフォーム構築を巡る議論が展開されました。

2日目は会場をenocoに移し、大阪ガスとenocoの主催でeno so done! のスペシャルバージョンを開催。昨夜に引き続いて馬場氏に登場頂き、「都市の価値創造作戦会議」と題して、これからの公共空間のあり方を取り組んだ事例を織り交ぜながら、行政マンを対象にぐっと人数を絞り、より具体的に実践的なレクチャーが行われました。

松本拓/enoco企画部門

eno so done! スペシャルバージョン 「都市の価値創造作戦会議」(2015年9月5日)



アートフォーラム〈こどもとアート〉の現場を考える キッズ! ファンタスティックミュージアム -こどものためのワークショップ- (2015年8月26日)

今回で4回目を迎える本事業は、大阪府20世紀美術コレクションを活用した子供対象ワークショップと、大人向けのフォーラムの2部構成となっています。ワークショップではキッズプラザ大阪の岡田可斗子さんを講師にお迎えして大阪府20世紀美術コレクションをグループごとに鑑賞した後、創作活動をしました。大人向けフォーラムでは「こどもとアートの現場のつくりかた」と題し、〈こども☆ひかりプロジェクト〉代表の清水文美さん、学習環境デザインの研究者でありワークショップデザインの第一人者である上田信行さんにお越しいただき、事例紹介をしていただくとともにグループディスカッションを行いました。子どもたちにとっては美術と積極的に関わる第1歩として、大人たちにとっては仕事や普段子どもと関わっている現場に持ち帰り、新たな取り組みのきっかけとなる1日となったのではないのでしょうか。

高橋真理子/enoco企画部門

こどもとアートの現場のつくりかた -トーク&ディスカッション- (2015年8月29日)



大力拓哉・三浦崇志 エノコトコトムービー部 (2015年8月)



「エノコトコトムービー」は、「えのこじま仮設映画館」特設ウェブサイトのアーカイブページよりご覧いただけます。
<http://www.enokojima-art.jp/e/enokojimacinema-arch/>

大力拓哉・三浦崇志のウェブサイトはこちら
<http://dddmmm.info/>

大阪出身の2人組映画監督、大力拓哉・三浦崇志とともに映画をつくるワークショップ「エノコトコトムービー部」。

enocoのある江之子島周辺を散歩しながら、参加者に映像を撮影してもらい、それを集めて一本の映画を作ってみようという試みで、2015年8月に開催された「えのこじま仮設映画館」のメインプログラムの一つとして行われました。

猛暑の8月上旬に敢行された撮影ワークショップでは、協賛企業であるパナソニック提供による最新のウェアラブルカメラと手持ちカメラを使い、参加者が思い思いに街の風景を撮影しました。ビデオカメラを手に出かけるだけで、見慣れた風景がいつもと違うものに感じられます。またそれぞれが撮影した映像を見てみると、道路や川や建設中のビル、公園で遊ぶ人、さらには植え込みの花やセミの抜け殻などなど、なんの変哲もないものをとりとめなく撮影しているだけのはずにもかかわらず、各人の視点の違いや撮り方のクセがはっきりと現れていて、まったく見飽きません。

また8月30日に行われた「トコトムービー上映会」では、長時間にわたる編集作業を経て完成した映画の試写会とあわせて、大力拓哉・三浦崇志によるアーティストトークが行われました。ともに1980年生まれの幼なじみであるお2人は、遊びの延長から一緒に映画をつくり始め、既存のジャンルを超えた不思議な世界観を持つ映画を制作しています。ここ最近では、事前に脚本やプロットをあえて作らず、出かけた先で起こる出来事を即興的に取り込みながら撮影を行うという制作方法に継続して取り組んでいます。今回の試みはそこからさらに考え方を進め、「偶然に出会うものを撮影した映像」というものを飛び越え、「自分たち以外の誰かが勝手に撮影した映像」に興味を持ち思いついたとのこと。3歳児から40代まで、さまざまな人が参加した「エノコトコトムービー部」は、彼らにとっても貴重な機会となったようでした。

「えのこじま仮設映画館」では約1ヶ月にわたり、映画づくりからアニメーション制作、映像作家の作品への出演まで、映像にまつわるワークショップを多数開催しました。参加者はそれぞれの関わりかたで思い思いに楽しんでいました。お力を貸してくださった映画監督、アーティストの皆さん、本当にありがとうございました！

峯恵子/enoco企画部門



enoco のひとびと



自分たちが事業をしている時には他所も同じく、というアート関係者がある。今年の夏は見逃したのも多く、SNSで流れてくる写真を前にハンカチ噛みしめました。芸術の秋が始まりますが、色々重なっていてどうなる、私の秋。(皆さん日などずしませんか…)
[プログラムコーディネーター 高坂玲子]



先日「江之子島仮設映画館」が無事に終了しました。その打ち上げの席にて、「エノコの女性陣でギャルバン組めば？」と某参加者の方に勧められ、まんざらでもない今日この頃の私たちです。確かにギャルバン、激しくあこがれるよな…。
[アートコーディネーター 峯恵子]



8月からenocoのメンバーとして加わりましたが、徐々に体験することや、普段とは違う仕事場の環境など色々新鮮味を感じ、楽しい日々を過ごしています。今までの経験を活かしてenocoでの取り組みにチャレンジしていきますので、皆さまよろしく願います！
[コーディネーター 松本拓]

enocolumn 07

千日前線に乗って

enocoに関わる創造人たちによるコラム。

2013年に発足した大阪アーツカウンシル統括責任者の佐藤さん、お願いします。

大阪アーツカウンシルの仕事を始めてから大阪市営地下鉄千日前線によく乗るようになった。ピンクがシンボルカラーのこの路線、マイナー感はあるけれど(失礼)、阿波座駅下車のenocoをはじめ沿線には文化的なスポットも多い。大阪の隠れカルチャー路線と命名したい。

阿波座の隣、西長堀駅に直結する大阪市立中央図書館はコミックや料理本から専門書まで蔵書の幅が広く、インターネットで蔵書検索、予約もできるのがとても便利。特設展示、講演などイベントも充実している。折にふれて館内のあちこちでできる特集書棚も要チェック。講演をする作家の本を集めたり、まちなか音楽祭「大阪クラシック」にちなんで音楽本を集めたり。大阪都構想の住民投票前には関連書籍コーナーも登場

佐藤千晴

大阪アーツカウンシル統括責任者

さとう・ちはる
1962年生まれ。朝日新聞の文化担当記者を経て大阪アーツカウンシル統括責任者に就任。大阪アーツカウンシル大阪府と大阪市が共同設置した「大阪の文化振興を効果的に進める仕組み」。2013年に誕生。府・市の助成金審査、事業の調査・評価などを手がけている。毎週金曜日の午後はenocoに「出張所」を開設。常設オフィスも常勤スタッフもまだないけれど、非常勤の委員4人が知恵を出し合い、様々な人々と協力して大阪の文化的な底力の発信を目指しています。
HP <http://osaka-arts council.jp/>
Facebook <http://www.facebook.com/osakaartscouncil>

「アートは、生きる糧。」

様々なツーリズムの形態が近年開発されているが、その一つがアートツーリズムと言える。日本ではまだまだ定着していないが、それでも、この夏訪れた別府混浴温泉世界や越後妻有大地の芸術祭では、アート作品を巡りながらその土地の魅力に触れる多くの人々に出会った。アートを媒介として、その地域を訪れる。僕自身、芸術祭がなければあの山々を巡ることなかった。その意味では、大きな効果をもたらしていると言える。しかし、僕が毎夏滞在するアヴィニョンでは少しその意味合いが違うように思える。1947年から始まったFestival d'Avignonは、勝手連的に1971年からオフの演劇祭も本格化し、現在では1000を超える上演団体(演劇、ダンス、サーカス、大道芸…)が集まり7月のアヴィニョンは、まさに演劇都市となる。町中がポスターで埋め尽くされ、9万人の小さな都市の人口は2倍以上に膨れ上がる。

違いは何なのか。勿論、ファインアー

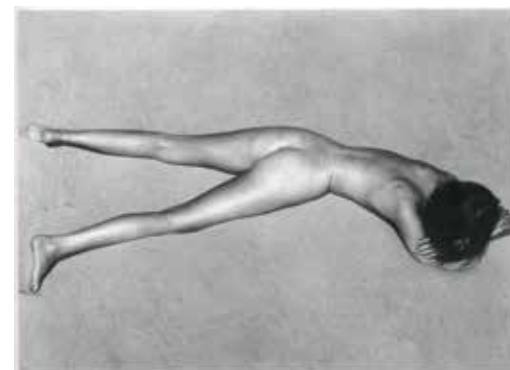
トとパフォーマンスアートの違いはあるが、その違いの根本は成り立ち、その開催の目的にある。アヴィニョンは芸術文化の振興と人々の芸術への意識啓蒙であり、町の活性化を狙ったものではない。結果としては、多大な経済効果をもたらしているが、そこに集まる人々の意識にも大きな違いがある。アヴィニョンに来る人々は、純粋にアートそのものを楽しんでいるのである。Offでも、人気のプログラムはすぐにソールドアウトになる。お年寄りも実に精神的に劇場に足を運ぶ。アートを楽しむことが日常であり、生きる糧になっているのである。決してファッションではないのである。



大阪府 20世紀美術コレクション

この一点！

1987年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。総数およそ7800点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品を毎月1点ずつご紹介いたします。



「ヌード」
エドワード・ウェストン(1886-1958)
1936年 | ゼラチン・シルバー・プリント
サイズ 184mm×241mm

「大阪府20世紀美術コレクション」のうち、意外にも大きなボリュームを占めているのが、アメリカ現代写真のコレクションです。その中から今回は、後世の写真家に多大な影響を与えた巨匠、エドワード・ウェストンの「ヌード」をご紹介します。

ピクトリアリズム(絵画的な空気遠近法を意識し、ばかしの技法や被写体の配置を重視する撮影手法)の写真家として出発したウェストンですが、1920年代、アルフレッド・スティューグリッツの影響を受けてストレートフォトグラフィに転じ、写真だけに可能な新しい表現方法の確立を目指します。以降、アンセル・亚当スらとともに写真家集団「f/64」を結成したウェストンは、美しくシャープなモノクロ写真で被写体の本質を生き生きと捉える傑作の数々を生み出していきます。女性のヌードから、ピーマン、大根、流木などの静物、あるいは風景まで被写体はさまざまですが、それぞれの「物体」としてのあるがままの姿を平等に見つめ、大胆に写しとる作品たちは、写真というメディアが極めて日常的なものとなった現在でも、見るものに新鮮な驚きと感動を与えます。



峯 恵子
enoco企画部門

オン★ザ★レビュー

enoco地下1階の古書店、オン・ザ・ブックス 米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介します。



「絵本アイビーボーイ図鑑」
穂積 和夫 著

60年代にアメリカで始まったアイビーファッション。3つボタン段返りのブレザー、オックスフォードのBDシャツ、レジメンタルタイ…ついこないだもリバイバルがあったぐらい、息のなが〜いファッションです。この本の面白いところは、浴衣もアイビーファッションとして扱っているところ。つまり単なる模倣ではなく、日本の目線でそのスタイルを取り入れたアイビーファッションを提案しています。さらには趣味や遊び方も紹介し、アイビーを愛してやまない人にはたまらない一冊となっています。enoco館長甲賀さん曰く「アイビーはさ、ルールなんだよね〜」の言葉通り、この本を読めば粋なアイビーボーイになれるかも?!

ON THE BOOKS

営業時間: 11:00-20:00(月曜日定休)
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中 www.on-the-books.info

米田 雅明

オン・ザ・ブックス店長



enocoではシェアオフィス入居者&ホームページ広告バナー随時募集中!



えのこじまアート&ライフ

enocoのある大阪市西区江之子島では、アートやデザインのちからで、くらしをより楽しむための文化活動「DECOBOCO(デコボコ)」が行われています。



8月から自宅近くのスイミングプールの会員になったのですが、それだけで健康になった気分になり、9月下旬現在、まだ一度しか泳ぎに行けてません…。ほかに太極拳などやってみたいのですが、どなたかDECOBOCOで講座を開いてくれないでしょうか…。
[DECOBOCOディレクター後藤哲也]



神奈川県茅ヶ崎市生まれ。大阪には3年半ほど前に引越してきました。大阪のTEZUKAYAMA GALLERYや香港のAISHONANZUKAで美術作品を発表したりもしています。この江之子島から大阪を盛り上げるお手伝いが出来たらと思っています。
[DECOBOCO スタッフ 小池一馬]

えのこじまの「マークスタジオ」

DECOとBOCOの活動は、阿波座ライズタワーズMARK20 1階の「マークスタジオ」で主に行われています。

今回は、8月からスタッフとしてマークスタジオで働いている、小池さんと山口さんに話を聞きました。

- マークスタジオで働き始めて1ヵ月が経ちますが、どうですか？
- 山口 イベントの企画を考えたり、あっという間でした。マークスタジオの講師の方々とも仲良くなって、先日は「しろくまヨガ」の西さんにお花を頂いて、せっかくなので押花にしました。
- 小池 ぼくは「卓球講座」でのダブルスの試合が、ものすごく白熱していたのが印象的でしたね。
- 6次元ナカムラクニオさんのワークショップでは金継にチャレンジしたと聞きました。
- 山口 「金継ワークショップ」は本当に楽しかったです！使えなかったものが使えるようになるなんて！なんでもかんでも捨てちゃいけないね。
- 小池 茶碗や皿が欠けるのがもう怖くなりました。壊れても金継でカッコ良く直せるから、やった！みたいな。本うるしで金継をするととにかく手間がかかって大変らしいのですが、ナカムラさん考案の簡単な金継は、誰にでもできる生活の知恵のように感じました。
- 西区界隈で創造的な活動をする方々を招いての茶話会イベント「界隈茶話会」。第2回目のゲスト、写真家の伊東俊介さんからはどんなお話がききましたか？
- 山口 出張写真館「いとう写真館」の活動を聞いて、写真って本当にいいなと思いました。もうすぐ甥が生まれるので、それを機会に定期的に家族写真を撮るようにしたいですね。
- 小池 伊東さんが写真を担当した雑誌「Re:S(リズ)」の裏話も面白かったですね。何を取材するか決めずに、編集者さんと「とりあえず鳥取に行ってみるか」。あの雑誌の持つフシギな雰囲気は、そうやって作られたからこそだったんですね。
- イベントを企画しているそうですが、今後の予定など教えてください。
- 小池 ぼくは11月に能楽研究家の朝原広基さんの能楽入門講座を企画しています。
- 山口 私11月のenoco de マルシェにあわせて、本に関するイベントをしたいと企画を考えています。ぜひFacebookページでイベントチェックしてみてくださいね。



イベント情報

Facebookページ | www.facebook.com/bankofcreativeosaka

江之子島～阿波座で活動するご近所さんをゲストに、活動内容や地域のおすすめについて話を聞く数珠つなぎ形式のトーク「界隈茶話会」が10月28日に開催されます。写真家の伊東俊介さんからバトンを受け取った第三回目のゲストは、ダイヤモンドさん。

ダイヤモンドさんは大阪南堀江の日吉公園の前にある、ダイヤ印のアルミ製品を取り入れた、やさしい暮らしを提案するお店です。ここで食堂&カフェ、アルミ生活雑貨&小さなギャラリーを運営されているダイヤモンドさんの、これまでと今、そして地域のおすすめなどについてお話をうかがいます。



「界隈茶話会 #3」 ダイヤモンドさん

日 時 | 10月28日(水) 19:30-21:00
会 場 | マークスタジオ

最新情報はFacebookページをチェックしてみてください。



エノケン
さん
えのこ
じま
3
木津川
ココ